

認知症の周辺症状改善率約 **85%**

全国約 290 事業所、5000 名以上を対象に「自立支援ケア」を実施

認知症高齢者対応のグループホーム運営居室数日本一 メディカル・ケア・サービス (MCS)

● MCS 版自立支援ケアとは

認知症高齢者対応のグループホーム運営居室数日本一の当社は、「認知症を取り巻く、あらゆる社会環境を変革する」というミッションのもと、認知症のあるご利用者がその方らしい当たり前の生活を送るべく、自立を支援するケアを実施しています。

自立支援ケアは、認知症の二次要因である「身体的活動性の低下」と「精神・生活環境状態の悪化」に注目し、科学的根拠を基に、各事業所の介護職員と看護・リハビリの専門職のチームで行います。

具体的には、まず一人ひとりの身体機能や栄養状態、認知症の症状に関する約 250 項目のアセスメント（調査・評価・分析）を実施。その後、一人ひとりにあった「適正水分量の摂取」「タンパク質を中心とした栄養改善」「運動プログラムの実施」、および「処方薬の適正化」を、6 か月間実践します。約 250 項目のアセスメントは毎月更新します。

当社は、このケア手法を「MCS 版自立支援ケア」として確立。2019 年 1 月より 2022 年 4 月末まで、全国約 290 事業所の全ご利用者を対象にケアの提供、効果検証を行い、2022 年 5 月に結果調査を行いました。

● 特徴

これまで認知症ケアは、一般的に精神面へのケアが主とされてきました。それに対し、「MCS 版自立支援ケア」では、身体的不調による認知症状に着目し、科学的根拠に基づいた手法を用いて、客観的な効果検証を行うことが最大の特徴です。また、短期間の研修を受けることで介護未経験の職員でもすぐに実践できます。ケアの内容と成果に対し可視化できるのも大きな強みです。

● 成果（集計結果は、5 月末現在、集計済みの 236 事業所、3771 名分。）

1、認知症の周辺症状状態改善率 約 **85%** ※1

※1 ご利用者の全身状態や問題行動（BPSD）に大幅な改善がみられ、問題行動と身体機能のいずれかが改善した割合

○対象者：当社 236 事業所、3771 名。うち改善者 3194 名。※2

※2 導入済 294 事業所中、5 月末現在の集計済 236 事業所のデータ
（導入事業所内訳：愛の家グループホーム 281、
愛の家小規模多機能型居宅介護 12、愛の家デイサービス 1）

○実施期間：2019 年 1 月から 2022 年 4 月末まで順次実施。
（各実施期間は、6 か月間）

- ・夜間徘徊が消失し良眠傾向
- ・日中覚醒時間の大幅増加
- ・問題行動の消失
- ・ミキサー食から常食への変更
- ・排便状況の改善・下剤の中止
（周期・形状の改善やトイレでの排便が可能に）
- ・歩行ふらつき減少や転倒件数の減少
- ・全身むくみの改善
- ・座位姿勢の安定
- 当社 HP でも、自立支援ケアの導入事例を紹介しています●

2、入院日数の低減・・・**63.3%減少**（702 名を対象に、導入前と導入後の各 8 か月間を比較）

3、1 日あたりの減薬数・・・**804 錠**（616 名を対象。導入期間 6 か月間の成果）

その他、詳細やご不明点等につきましては、下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

● 本件に関するお問い合わせ ●

メディカル・ケア・サービス株式会社 コーポレートコミュニケーション室

〒330-6029 埼玉県さいたま市中央区新都心 11 番地 2 ランド・アクシス・タワー 29 階

TEL. 048-711-8308 Mail. ml_cc@mcs.co.jp HP (<https://www.mcs.co.jp/>)